

(別記)

2019 年度城南・富合地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

城南・富合地域は全耕地面積に占める主食用米面積の割合が約 48%で、転作作物に占める小麦、大豆、新規需要米の面積が多く、土地利用型作物の担い手への集積が進みつつある。

また、高齢化により農家数の減少が進んでいるが、現在のところ集落営農組織や営農法人、個人担い手が受け皿となり、不作付地の増加には繋がっていないものの、近い将来問題となることが懸念される為、集落営農組織の法人化の推進に取り組む。

当地域の、約 188ha（不作付地）の水田について、不作付地の解消に向かっていくが、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。特に、本地域における主要な推進作物を麦、大豆、新規需要米としながら、イチゴ、メロン等施設野菜を推進することで、水田のフル活用に取り組む。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

当地区での主食用米は、平成 31 年度においては、作付目安の 830ha を基に、需要に応じた生産に取り組んでいく。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

当地区での飼料用米は現在のところ一般品種と多収性品種を利用し、主として J A や他の集荷業者への販売用として生産を行っている。平成 30 年度においては約 90ha の作付が行われており、その内の多収性品種は約 68ha の実績であり、平成 31（令和元）年度においては、多収性品種の更なる作付拡大と、合わせて団地化形成を推進する。なお、産地交付金を活用し地域の酪農家と耕種農家との資源循環（耕畜連携）の取組みを推進する。

イ 米粉用米

当地区の米粉用米については、平成 30 年度において取組がなかったが、平成 31（令和元）年度では、一部生産者で昨今の需要を鑑みて、試験的に導入する予定となっている。その取組に伴い、当協議会においては、その結果を検証し今後の検討を行う。なお、作付品種は、多収性品種となる予定である。

ウ WCS 用稲

地域の実需者との契約を中心に生産が行われているが、地区外の畜産農家との契約も増え始めているが、地区内の畜産農家からの需要が減少していることから、当面は現状の維持と需要拡大を目標とする。合わせて、専用品種への転換を確実に進めていく。

(3) 麦、大豆、飼料作物

当地区では平成30年度産について、小麦約860ha、大豆約350haが作付されており、弾丸暗渠当の排水対策徹底による栽培管理を遵守し、多収・高品質化を目指す。

近年収量・品質が低下してきているので栽培管理の他、適期刈り取りの指導をJA中心に行う。

大豆については、産地交付金の団地化や担い手加算を活用しながら、城南・富合地区の大豆団地化及びブロックローテーションへの取組を支援する。

また、麦・大豆については担い手への集約や土地利用率向上のため二毛作を推進する。

飼料作物については、産地交付金を活用し地域の酪農家と耕種農家との資源循環（耕畜連携）の取組みを推進する。自家用としてイタリアンライグラス、スーダン、飼料用トウモロコシ、ヒエ等が約102ha作付されており、作付面積は需要拡大に取組み、面積の拡大に繋げたい。

(4) そば、なたね

水田における作付はほとんど行われていない（畑地等で裏作含め0.6haほど）。今後、作付拡大等の取組があれば検討するが、地域としては麦・大豆に重点を置く。

(5) 高収益作物（園芸作物等）

メロン、キュウリ、トマト、ミニトマト、イチゴ、ナス、カボチャ、レンコン、アスパラガス、玉ねぎ、宿根カスミ草、菊等の地域を代表する振興品目として奨励する。

また、産地交付金を活用し、野菜では、イチゴ、メロン、トマト、ミニトマト、キュウリ、カボチャ、アスパラガス、ナス、スイートコーン、ニガウリ、花卉では、かすみ草、トルコキキョウ、菊等の施設栽培を推進する。

(6) 畑地化の推進

当地域においては、普通作地帯であることから、取組は行わないとしている。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	873ha, 4, 915t	830ha, 4, 672t	830ha, 4, 672t
飼料用米	90	126	128
米粉用米	0	1.7	2
WCS用稲	113	128	128
麦	860	910	912
大豆	350	326	328
飼料作物	102	105	106
そば	0.4	0.6	0.6
その他地域振興作物	79.7	79.7	79.7
野菜	59.7	54.8	54.8
・メロン	4.2	7.3	7.3
・イチゴ	7.5	4.2	4.2
・トマト	14.3	7.1	7.5
・キュウリ	0.7	0.7	14.3
・アスパラガス	0.5	0.5	0.7
・カボチャ	3	3	0.5
・なす	3	0.6	3
・スイートコーン	6.4	0.3	0.6
・ニガウリ	10	6.4	0.3
・レンコン		10	6.4
・その他			10
花き・花木	11.8	11.8	11.8
・かすみ草	6.1	6.1	6.1
・菊	2	2	2
・その他花卉	3.7	3.7	3.7
果樹	5	5	5
雑穀	1.2	1.2	1.2
その他作物	5.1	5.1	5.1
地力増進作物	1.8	1.8	1.8

※主食用米の目標値（2019、2020年度）において使用した単収は **563 kg/10a**

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	使途名	目標	前年度(実績) 2018年度	目標値 2020年度
				1	野菜・花卉
2	麦・大豆 飼料作物	二毛作加算 (二毛作)	二毛作作付面積	麦 830ha	(808ha) 麦 834ha
				大豆 58ha	(92ha) 大豆 60ha
				飼料作物 74.4ha	(72ha) 飼料作物 76ha
			水田利用率	145%	(150%) 147%
3	【資源循環】 飼料作物・WCS用稲 【わら利用】 飼料用米	資源循環・わら利用の取組 (耕畜連携:基幹・二毛作)	資源循環取組面積	48.7ha	(50ha) 47ha
			わら利用取組面積	38.9ha	(47ha) 41ha
			耕畜連携実施率	28.7%	(38%) 32%
4	大豆	大豆団地化加算 (基幹・二毛作)	大豆団地化面積	332.4ha	(308ha) 337ha
			単収	156kg/10a	(210kg/10a) 170kg/10a
			一等級比率	26%	(30%) 28%
5	新規需要米	新規需要米団地化加算 (基幹)	飼料用米面積	20.5ha	(19ha) 24.5ha
			米粉用米面積	0ha	2ha
			作業時間	5分/1筆 30a	(6分/1筆 30a) 5分/1筆 30a
6	大豆・麦	担い手加算 (基幹)	大豆面積	351ha	(326ha) 323ha
			麦面積	29ha	(50ha) 47ha
			大豆生産コスト	26,000円/10a	(19,000円/10a) 24,000円/10a
			麦生産コスト	31,000円/10a	(25,000円/10a) 29,000円/10a
7	地域振興作物	地域振興作物助成 (基幹)	作付面積	72.5ha	(81ha) 74.5ha
8	高収益作物	高収益作物等拡大加算 (基幹)	作付面積	72.5ha	(2021年度)75ha

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内として下さい。(目標値の上段括弧書きは変更前の数字。)